

～認知症看護認定看護師の紹介～

認知症看護認定看護師の小倉です。普段は2階東療養病棟で勤務しております。

当院に入院される患者さんの約9割は高齢者で認知症を患っていることが多いです。

認知症の高齢者は、入院による環境の変化で認知症状が悪化することが多く、自分の思いをうまく伝えられず、いつも不安でいっぱいです。その思いに耳を傾け、代弁者になることが私の役割です。スタッフ全員が認知症の程度に合わせたケアを行い、「その人らしさ」を大切にできる環境作りを目標としています。入院前から退院後まで医師、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師、検査技師、ソーシャルワーカーなど多職種協働で、認知症になってもできるだけ住み慣れたよい環境の中で「その人らしく」安心して過ごせるよう、お手伝いさせていただきたいと思います。同時に、介護されている家族の方の思いや、今後の不安に対する相談やアドバイスなど家族支援にも力を入れていきたいと思っています。



～認知症を患う人を支えるご家族の方へ～

認知症は「老い」に伴う病気の一つです。その大きな問題は、その人自身の記憶を障害し、その人らしさを奪ってしまうことにあります。

認知症を患う人は、記憶によって結ばれている周囲と自分との関係がわからず、過去の記憶と現在のできごとの区別がつかなくなるため、不安を抱きます。

不安が大きいと、同じことを何度も尋ねたり、イライラして落ち着かなくなったりして、支えている家族に負担をかける行動を起こすことがあります。

病気によって変わりゆく人を支える家族は、つらく悲しい思いをされると思います。

あるいは何度も同じことを尋ねられ、困惑されているかもしれません。患者さんを支える家族の苦労は大変なものだと思います。

共に過ごした歳月を失いつつある大切な人を支える家族の皆さん、心の距離が遠すぎず近すぎず、適度な距離で見守ってあげてください。

共に過ごす時は永遠ではありません。笑顔の多い時間が過ごせることをお祈りしています。



認知症看護認定看護師：小倉